ご自由にお持ちください Take Free
Vol.15 2019年8月号
魚沼市・十日町市・津南町・南魚沼市・湯沢町& 周辺

越後魚沼探訪

盲目の女旅芸人 瞽女（ごぜ） p2-3

涼風を求めて越後魚沼 p4

Thanks to Snow ／ディスカバー越後魚沼

只見線の人気が高まっていて「撮り鉄」たちが毎日見られるほど。四季それぞれの美しい風景との組み合わせが魅力のローカル線だ。

写真はマニアが「青髭」と呼ぶ車両と、赤い「縁結び号」の組み合わせ。コンクリートのアーチ橋を通過するところだが、この橋は土木学会が近代土木遺産として指定した只見線第四平石川橋梁。下を破間川（あぶるまがわ）が流れる。

左は只見線と交差している国道252号柿ノ木スノーシェッドで、水害で寸断されていて現在は只見駅までの折り返し運転中、2021年に全線開通とか。

酒井　建（本紙編集部）

季節の花

ヤブコウジ（やぶこうじ科）。薮柑子。

画・外山康雄

草花と思われがちであるが、丈が三十糎ほどになる常緑小低木。中国大陸、半島に分布。北海道から九州に至る山地の木陰に生える。夏、葉のつけ根に小さな乳白色または薄紅色の総状の合弁花を下向きにつけ、これが径六粍くらいの球形の液果となり、冬に赤く熟して美しい。観賞用として庭園に植えたりする。

ヤブコウジ科には六種ほどある。その中で正月の縁起物生花としてセンリョウ（千両、仙蓼）、マンリョウ（万両）が良く知られている。このヤブコウジは前者に対してヒャクリョウ（百両）と呼ばれる。西欧に紹介された当初、日本特産の希少種と早合点され、保護種指定の議論が出た由。

●編集部／株式会社みらい内 〒948-0065 新潟県十日町市高田町3丁目304-2　☎025-752-0350　●メール yukiarite@gmail.com
●発行所／北越印刷株式会社六日町営業所　〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町479番地3 テルエルクボタビル3F　☎025-788-0891／本社：新潟県長岡市南陽2丁目949-8　営業所：東京・新潟・上越・六日町

日々旅にして旅を住み家とす
盲目の女旅芸人 瞽女（ご ぜ）さん

昭和18年　三国街道にて　報道写真家 佐藤振寿撮影

昭和7年頃　「長岡郷土読本」所載写真　後方の建物が「瞽女屋」ではないかと言われている

瞽女とは

瞽女（ご ぜ）とは、三味線を携え、民間を遊歴し、語り物・はやり唄・民謡などを唄い歩いた盲目の女旅芸人。中世には、鼓を打ちつつ、神仏の霊験譚を説く盲女の存在が確認され、その起源は古い。近世に入り、城下町を中心に組織的な瞽女集団が生まれた。日本各地に仲間集団があったが、明治時代にはいって早くすたれ、姿を消した。ところが、越後では、大小幾つかの集団が形成され、特に幕末から明治にかけて、最盛期を迎え、広く遠隔地まで巡業活動を行い、近年まで存続した。

越後で瞽女が多く生まれ、また最後まで残った理由は、次のような越後人独特の気質や社会的自然的環境が大きく作用していると思われる。

①雪国で、劣悪な衛生環境の中で目を患い、失明するものが多かった。

②目の見えない女性は、世渡りの業として語り物や唄を習い、旅を続けて、田舎の人たちに娯楽を提供し、民衆の強い支持をうけた。

③越後は零細な農家が多く、出稼ぎの気風に長けていて、特に雪の無い遠方の関東地方に出かけた。

越後では長岡瞽女・高田瞽女と2大集団が存在していたが、ここでは魚沼に縁が深い**「長岡瞽女」**を中心に書いてみたい。

長岡瞽女は、かつて中越地方一帯から下越地方の南部にかけて、分散、居住していた瞽女の仲間集団である。組織の本部支配所が長岡にあったので、そのように呼ばれていた。明治の中ごろには、日本最大の瞽女集団を形成していた。

一派を統率する瞽女頭（ごぜかしら）は代々**「山本ゴイ」**を襲名し、集会所「瞽女屋」は唄の稽古所であり、旅の疲れを癒す休息所にもなっていた。その敷地は二八五坪あったという。建物は明治元年の戊辰長岡戦争で焼失したが、まもなく再建されたようだ。二階建ての大きな家で、一階の奥座敷には正面に仏壇を納め、床の間に弁天様の掛け軸を掛けて祀っていた。

瞽女の祭り妙音講

瞽女たちが芸の守り本尊をお祭りする集会を「妙音講」という。瞽女屋は、その本尊弁天様を祀っていたので、「弁天講」ともいわれていた。しかし、長岡瞽女の妙音講は、瞽女屋山本家で行われたので、山本ゴイの先祖を供養する法会を兼ねるものだった。

山本ゴイの先祖は、長岡藩主牧野氏の息女で照姫と称し、生来盲目のため、家老の山本家へ親知らずの養女に遣わされ、成長して元禄の末に柳原へ分家にでたと伝えられている。

妙音講は旧暦三月七日に一派の瞽女全員を集めて催された。この日は照姫の命日だという言い伝えがあるが、明治時代には、新暦が採用されて、四月十七日となった。妙音講には、たとえ、遠くに旅に出ていようと、前日までには帰ってきて、この妙音講に参加することを義務づけられていた。

長岡瞽女の妙音講は、第二次世界大戦中も行なわれていたが、昭和二十年八月一日夜の米軍機による長岡大空襲で瞽女屋が焼失し、それ以来途絶えた。

平成七年、**瞽女唄（えいさまうた）ネットワーク**では、唯敬寺（ゆいきょうじ）（長岡市）が瞽女屋山本家の菩提寺であった因縁をもってお願いし、小林ハルの瞽女唄を継承する竹下玲子を講師に迎えて「瞽女唄教室」を開講した。そして翌八年五月受講生を中心として、五十年ぶりに妙音講を開き、それ以来毎年春に開催してきた

唯敬寺を会場にして復活した今日の妙音講では、「桜づくし」だけを奉納している。この曲は、江戸前期の地唄（上方唄・京唄）の作

Thanks to Snow　A Dragonfly in Heaven

土井ひとみ　*Hitomi Doi*

I always think the word bard sounds romantic. A bard travels from town to town, rain or shine, with a musical instrument, and explores new worlds.

Then I learned about goze. They were blind, female “bards” singing with shamisen instrument and traveled on foot, rain or shine or heavy snow, everyday, all year round. Being goze was one of a very few means to make a living for visually-impaired women at that time.

The last goze, Haru Kobayashi died in 2005 at age 105. They say the distance she walked is equivalent with 10 laps around the Earth. Haru would never agree that her life was romantic. But she and other goze showed us how strong blind women could live more than a hundred years ago, long before the idea of the welfare for the disabled was born in this country. That kind of strength is romantic.

The Paralympic Games will be held in Japan next summer. We’ll see in real life the strength of many women and men with disabilities. Our society has grown this far to admire their endeavors. The long footprints of goze women are leading us to this point. We’ll witness goze’s hard work and their accomplishments in those beautifully glowing modern athletes. We’ll pay special attention to the challenged humans in 2020.

かつて、雪国に生まれ視力を失った女性たちの数少ない生きる道が、瞽女になることだった。最後の瞽女・小林ハルさんが生涯に歩いた距離は、地球10周分になるという。

障がい者の権利という概念さえまだなかった時代から、瞽女たちは盲目の女性が自立してどれほど強く生きていけるかを証明してきた。障がい者を意味する最新の英語はthe challenged チャレンジドという。挑戦する人たち。神から挑戦するよう使命を帯びた人たち。

来年夏、パラリンピックが日本で開催される。実は1964年、最初の東京オリンピックの年に第２回パラリンピックが開催されている。そのときは視力障がい者のスポーツ競技は行われなかった。人類社会はやっとここまでたどりついた。その進化の道のりは、瞽女たちが豪雪の中を歩いてきた途方もない道のりと重なっている。

2020年、挑戦し続ける人たちの力と輝きの中に、瞽女たちの遠い長い歩みを感じたい。

越後魚沼フォトライブラリー
フォト酒井
酒井　建
新潟県南魚沼市浦佐5445-4
TEL090−4360−0346

総合企画／広告代理／印刷
デジタルコンテンツ
株式会社 みらい MIRAI INC.
〒948-0065 新潟県十日町市高田町三丁目304-2
TEL025-752-0350　FAX025-752-0351

感動・創造・未来へ
北越印刷株式会社
DRAMATIC PRINTING
六日町営業所
〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町479-3 テルエルクボタビル3F
Tel 025-788-0891 Fax 025-788-0892

昭和47年頃か　珍しいカラー写真（南魚沼市浦佐）

昭和55年4月　竹下玲子と小林ハル（新発田市）

昭和45年　門付風景（魚沼市大湯）

曲家、演奏家であり、長唄の創始者でもある佐山検校の元禄時代の作と言われている。妙音講が桜の満開の時期に行われるので、この曲が選ばれたようである。

明治以降の著名な瞽女の面々

明治から昭和の初期には多数の瞽女が新潟県を中心に活躍していた。この頃の代表的な瞽女に伊平タケがいる。タケは開局間もないNHKに出演し、SPレコードの吹込みを行なった。第二次大戦後、ほとんどの瞽女は廃業後に転職したために、その数は急速に減少していった。**小林ハル**はその中で最後まで活躍した長岡瞽女であった。後年、ハルは唯一の長岡瞽女唄伝承者として、その継承と保存に尽力した。数少ない音源の多くも彼女のものである。

昭和三十年代、高度経済成長を続ける日本で、瞽女とその芸能は衰退していった。そんな中、杉本キクエは、杉本シズ、難波コトミの二人の弟子を抱えて、それでも昔の唄を聞いてやろうという村々を頼りに細々と旅を続けていた。

昭和五十二年を以て、瞽女の旅姿は地上から消えた。最後まで旅を続けていた中静ミサオ、金子セキ、手引きの関谷ハナが老人ホームに入ることになった為である。

昭和四十五年、**杉本キクエ**は、国の記録作成等の措置を講ずべき無形文化財「瞽女唄」の保持者に認定されている。その後**伊平タケ**、そして平成七年**小林ハル**が無形文化財に指定された。小林ハルは、平成十七年百五歳で亡くなった。

瞽女唄ネットワークの立ち上げ

昭和五十二年、東京の劇作家**若林一郎**は、小林ハルの瞽女唄と初めて出会い心打たれる。一緒に聞いていた研修生の中に**竹下玲子**がいた。以後、竹下玲子は、ハルの弟子となり、一ヵ月ごとに東京から当時ハルさんの住む、盲養護老人ホーム「胎内やすらぎの家」に出掛けて、瞽女唄を習う。

昭和六十三年、竹下玲子は小林ハル入門十周年を記念して新潟市音楽文化会館にて『竹下玲子瞽女唄リサイタル』を開催した。ここに小林ハルも賛助出演。瞽女唄伝承者竹下玲子の旅立ちとなった。

竹下玲子は、小国芸術村の活動に関わっていたことから、小国町に住む高橋実が、平成二年九月に「越後瞽女唄愛好会」設立を呼び掛け、長岡「けさじろ荘」にて準備会を開く。

この会は、平成三年四月**瞽女唄ネットワーク**として発足した。代表に瞽女研究第一人者鈴木昭英を選び、事務局長は高橋実が担当した。

鈴木昭英は民俗学者、文学博士。昭和七年長岡市生まれ。大谷大学大学院文学研究科博士課程満期退学。大阪市立博物館学芸員、長岡市立科学博物館長、長岡市郷土史料館長。

越後瞽女唄・葛の葉会

竹下玲子を後援するための組織として立ち上げた瞽女唄ネットワークは、毎年県内縦断での竹下玲子の瞽女唄ツアーを、会場設定して回った。平成十一年県内縦断瞽女唄ツアーには、十八会場で合計二千二百人もの入場者があった。

平成十年、竹下玲子は伝統文化ポーラ賞を受賞し、その授賞式が東京プリンスホテルで行われた。その年、竹下玲子は長岡で瞽女唄教室を開校した。十月二十五日には瞽女唄教室受講生発表会が与板蓮正寺で行われた。

その後長岡に居を構えていた竹下玲子が長岡を引き上げ、横浜へ引っ越すことになったのを機に平成十一年九月瞽女唄教室受講生の会「越後瞽女唄・葛（くず）の葉会」を結成し、十二月葛の葉会でお披露目公演を唯敬寺で行った。

当初十名を超える会員がいたが、現在長岡の室橋光枝・須藤鈴子・金川真美子、南魚沼市の横川恵子四人が伝統を引き継いで瞽女唄を唄い続けている。

竹下玲子は横浜に移り住み、年に数回は新潟など各地で出演を続けてきた。新潟の皆様から預かった瞽女唄を、新潟の皆様にお返しできたことに安堵していると語っている。

南魚沼市に住む**横川恵子**は、葛の葉会の主要なメンバーとして地元は勿論、山形県まで行って瞽女唄を唄っている。

瞽女唄のこれから

伝統ある瞽女唄が細々ながら続いている。しかし、地元でも多くの人たちが長岡が越後瞽女の拠点だったことなど知らない。

「越後瞽女唄・葛の葉会」は、瞽女唄の修得と伝承に心がけている。瞽女唄ネットワークは、これを全面的に支援し、今後とも越後の伝統芸能である瞽女唄のともし火を消さないように努力してゆきたい。

髙橋　実（瞽女唄ネットワーク広報担当）　新潟大学教育学部卒業。卒業論文『北越雪譜の研究』。北越雪譜を卒業論文に選んだ主人公を描いた小説「雪残る村」が第52回芥川賞候補となる。十日町市水沢中学校、松代町清水中学校、十日町高校田沢分校、川西高校などに勤務。長岡市小国町在住。

平成13年　101歳の小林ハル

平成９年　竹下玲子の瞽女唄公演（十日町市）

平成30年　横川恵子の瞽女唄公演（南魚沼市）

ディスカバー越後魚沼

じつは、『北越雪譜』を読んでいなくて…⑥

夏、一度くらいはかき氷が食べたくなりますが、たいてい食べると頭がキーンとなります。アイスクリーム頭痛というらしいです。日本では、いつでも氷は手に入りますが、電気のない昔は、冷たいものを口にする場合、高い山から残雪を持ってくるくらいでした。

「削氷（けづり）」（二編夏、原文より）

（前略）芝原嶺（しばはらたうげ）を下り湯沢（ゆさは）に抵（いたる）んとする途（みち）にて遥（はるか）に一楹（いちえい）の茶店（さてん）を見る。庇（ひさし）のもと床（ゆか）ありて浅き箱やうのもの白く方（かく）なる物を置（おき）たるは、遠目（とほめ）にこれ石花菜（ところてん）を売ならん、口には上（のぼ）らずとおもひながらも、山をはなれて暑もはげしく汗（あせ）もしとゞに足もつかれたれば茶店（さてん）あるがうれしく、京水とともにはしりいりて腰をかけ、かの白き物を見ればところてんにはあらで雪の氷なりけり。六月に氷をみる事江戸の目には最珍（いとめづら）しければ立よりて熟視（よくみれ）ば、深さ五寸計（ばかり）の箱に水をいれその中に小き踏石（ふみいし）ほどの雪の氷をおきけり。（中略）さらばとて乞（こ）ひければ翁菜刀（おきなかなばつぱ）を把（とり）、盎（さら）のなかへさら〳〵と音（おと）して削（けづ）りいれ、豆の粉をかけていだせり。氷に黄（き）な粉（こ）をかけたるは江戸の目には見も慣（なれ）ず可笑（をかし）ければ、京水と相目（あひもく）して笑（わらひ）をしのびつゝ、是は価（あたひ）をとらすべし、今ひとさらづゝ豆の粉をかけざるをとて、両掛（りやうがけ）に用意したる沙糖（さたう）をかけたる削氷（けづり）に、歯もうくばかり暑をわすれたるは珍（めづら）しき事いはんかたなし。

北越雪譜を出版に導いてくれた山東京山は「百樹（もゝき）曰（いわく）」と記して登場します。これは天保八年に牧之を訪ねる道中での出来事です。（京水はその息子で絵師。）

芝原峠から湯沢に行く途中に茶店があり、遠目から白いものがトコロテンに見えました。しかし、近くに行くと雪の氷で、六月に雪を見る事は珍しかったので、求めると、雪の氷を菜切包丁で皿に削り、黄な粉をかけてくれました。氷に黄な粉とは可笑しくて、今度は粉をかけないでもう一皿ずつもらい、持っていた砂糖をかけて食べてみました。歯が浮くかのような冷たさにしばし暑さを忘れ、この珍しい出来事に感動したと、京山はいっています。

その後、京山親子は塩沢の牧之宅を訪ねます。その頃、毎日のように雪の氷売りが来ていました。京山は、たやすく手に入るともう珍しく思わないのは人の常…。と。

鈴木牧之記念館

南魚沼［南魚沼市・湯沢町］
山河の大自然

1**日本二百名山 八海山**(南魚沼市)観光ロープウェーの山頂展望台(標高1147m)からは、上信越の山々や快晴時は佐渡島まで見渡せます。問(一社)南魚沼市観光協会☎025-783-3377問八海山ロープウェー☎025-775-3311 2**五十沢渓谷**(南魚沼市)しゃくなげ湖(三国川ダム)上流の十字峡から下津川、黒又川、三国川上流へ渓谷美が続く。問しゃくなげ湖畔開発公社☎025-774-2200 3**湯沢高原パノラマパーク**(湯沢町)シーズンを通じ約200種の高山植物が咲くロックガーデンは日本最大級。緑や花に囲まれた5つのテラスで贅沢なひとときを。問湯沢高原パノラマパーク ☎025-784-3326

涼風を求めて越後魚沼

雪ありて

©苗場山麓ジオパーク振興協議会

「Tunnel of Light」マ・ヤンソン/MADアーキテクツ
Photo by Osamu Nakamura

中魚沼［十日町市・津南町］
名水の里山

1**全国名水百選 龍ヶ窪**(津南町・谷内)龍神伝説が残る池。7～10℃の冷水が湧き出し、一日で池の水が入れ替わるとされます。問津南町観光協会 ☎025-765-5585 2**日本三大峡谷 清津峡**(十日町市・小出)清津峡を鑑賞するための渓谷トンネルでは、水鏡に映り込んだ大峡谷が広がる幻想空間が楽しめます。問清津峡渓谷トンネル ☎025-763-4800 3**越後妻有 大厳寺高原キャンプ場**(十日町市松之山天水越)天水山の中腹、標高700mに広がる高原。キャンプやSUP、カヌー、ダウンヒルサイクリング、ノルディックウォークなど、アクティビティも充実。問越後妻有大厳寺高原キャンプ場 ☎025-596-2994

北魚沼［魚沼市］
奥只見湖遊覧

1**奥只見湖遊覧船 こども船長体験**(魚沼市)船長の制服を着て操舵室で操船体験！周遊コース(1日7便運行)にて9月1日まで毎日開催。乗船料大人980円、小学生490円(新潟県内在住の小学生は無料※県内在住が確認できる証明書等を提示)。各便先着15家族(お子様最大30名まで)。問奥只見湖遊覧船☎025-795-2242 2**日本遊歩道100選 中荒沢万年雪**(魚沼市・銀山平)夏にオススメのひんやりスポット。登山口から展望台まで徒歩約40分。管理協力金200円(小人100円)。問銀山平キャンプ場☎025-795-2448 3**上原コスモス園**(魚沼市吉平)約3haの上原高原が一面ピンクの絨毯に覆われ、コスモスの楽園となります。見頃は9月上旬～10月中旬。問(一社)魚沼市観光協会☎025-792-7300

※花の開花時期は天候等により変動します。

Information（2019年8月–9月）

津南ひまわり広場(津南町沖の原台地)8月18日まで。50万本のひまわりが咲き誇る。駐車場：バイク100円、普通車300円。問津南町観光協会☎025-765-5585

松之山大厳寺高原キャンプ場 真夏の雪まつり(十日町市)8月14日㊌。雪上でのゲームやソリ遊びなど。問松代・松之山温泉観光案内所☎025-597-3442

大前神社例大祭(南魚沼市大崎・大前神社)8月14日㊌・15日㊍。14日夜の翁式三番は平安期の猿楽の形を残す。県指定無形民俗文化財。問大和観光協会☎025-777-3054

国重要無形民俗文化財 盆踊り「大の阪」(魚沼市堀之内・八幡宮境内)8月14日㊌～16日㊎。別名「念仏踊り」。哀愁を帯びた静かな踊りが特徴。問大の阪の会☎025-794-6073

湯沢温泉夏まつり(湯沢町・JR越後湯沢駅東口駅前広場)8月15日㊍。祭り広場、若連中みこし、花火大会など。問湯沢温泉夏まつり事務局☎025-785-5353

清田山キャンプ場まつり(十日町市清田山)8月15日㊍。真夏の雪のすべり台や雪中宝探し、さかなのつかみ取りなど。問清田山キャンプ場☎025-763-3001

小出まつり(魚沼市小出・本町周辺)8月25日㊐～27日㊋。花火大会は26日夜。打上げ数2,000発予定。問小出商工会☎025-792-2124(平日のみ)

十日町おおまつり(十日町市駅通り・本町他)8月25日㊐～27日㊋。大民謡流しや全国的にも珍しい八角神輿など。問(一社)十日町市観光協会☎025-757-3345

魚野川鮎まるかじり祭(南魚沼市・魚野川坂戸橋西詰側)8月24日㊏。全長20mの特設焼き場で鮎を炭火焼きして豪快に丸かじり！模擬店など。鮎塩焼き2匹と樽生ビール3杯付で前売券2,500円、当日券2,800円。問(一社)南魚沼市観光協会☎025-783-3377

松之山温泉JAZZストリート(十日町市松之山温泉)9月7日㊏。温泉街特設ステージでの限定ライブ。問十日町市観光協会松之山支部☎025-596-3011

越後妻有クラフトフェア2019(津南町・ニュー・グリーンピア津南)9月7日㊏・8日㊐。100人の作家が集結。木工・金属・ガラス・布・石・陶芸・染織・紙・皮革など逸品が勢ぞろい。問モリクラフト☎025-765-4934

若宮八幡宮十五夜祭・太々御神楽(南魚沼市一村尾・若宮八幡宮)9月15日㊐・16日㊊。江戸時代宝暦年間より伝わる御神楽。市指定無形民俗文化財。問大和観光協会☎025-777-3054

ぶどう収穫祭とワイン祭り(南魚沼市浦佐)9月14日㊏・15日㊐。ぶどうもぎ穫りや野外コンサートなどワイナリーならではの楽しみ盛りだくさん。問アグリコア越後ワイナリー☎025-777-5877

堀之内十五夜まつり(魚沼市堀之内・八幡宮境内)9月13日㊎～15日㊐屋台囃子、民謡流しほか。14日夜は花火大会。魚野川の急流に身を任せて下る勇壮な「御輿流し」は最終日。問堀之内商工会☎025-794-2433

もっと気軽に、身近に ボランティアを楽しんでほしい

ケア帽子配置箇所
- すずカフェ able
- 道の駅いりひろせ
- 竜ヶ窪温泉 竜神の館
- 美波リンパケアセンター

誰かの力になりたい。中学生の頃からボランティア活動に興味があった**穴沢孝久さん**は、「けあ帽子くらぶモカ」という活動クラブを開催している。ケア帽子とは、抗がん剤治療の副作用により毛髪を失った患者のための、タオル生地等で作る帽子のことだ。

利用者が日常的に使うものだからこそ、ストレスにならない製品を心がけているという。通常の作り方にアレンジを加え、タオルの手触りや縫い方等に気を配ったオリジナルのケア帽子を生み出し、作製教室も開いている。縫わない帽子もあるというから驚きだ。

先日、東日本大震災のチャリティーイベントでは、バイオリン演奏で参加した。また、ヘアドネーション活動にも取り組んでいる。

一年前から始めたこれらの活動が、今まさに周知されつつある。これからの活動を応援していきたい。魚沼市入広瀬在住。

けあ帽子くらぶ モカ
https://ameblo.jp/uonuma-carecap-club/

紙粘土から生み出す命 人形のぬくもりを感じて

作品名「見つけたよ」

織物の町十日町市の一角、吉澤織物㈱の建物内におとぎの国美術館はある。妖精や動物を模した人形から、着物にまつわる人形、物語の一場面、野に咲く草花まで、実に様々なテーマの人形およそ2000体が飾られている。

人形は、たった一人の女性の手により命が吹き込まれた。十日町市在住の**福崎礼子さん**だ。主に用いるのは紙粘土だが、和裁仕立ての自作の着物を着せたり、和紙やビーズ等を使うなど、テーマに合わせた工夫によって人形達はそれぞれの個性と雰囲気が増していく。

「人形は〝ひとのかたち〟と書くように、作る側も見る側も、人の心が反映されるのかもしれません」と福崎さん。どの人形を気に入るか、人形を見てどのような思いを抱くか。おとぎの国美術館は人形を楽しむだけでなく、自分を振り返るひとときになるだろう。

おとぎの国美術館(吉澤織物㈱ 吉彩館3F)
十日町市寿町4丁目8番 ☎025-752-4530
(吉澤織物株式会社)

製粉から新電力まで すべては 地域振興のために

南魚沼産コシヒカリで製粉を、神楽南蛮でソースを企画製造。なるほどと思って聞いていたら、えっ、今度は新電力…ですか？

「すべては地域のためだから」と涼しい顔で答える元気なシルバー**中俣政利さん**。

農業者でありながら地域の観光や産業、文化にまで繋げていきたいと。事業内容が問題ではなく、あくまで地域振興なんだからと、まったくブレが無い。

辛味ソース「かぐらいおん」と、激辛「カグライジン」が好評。さらに微粉末製粉による米粉シリーズや、最近は南魚沼産コシヒカリを特殊製法でアルファ化した米糠パウダー(右上写真)など、開発を続けてきた。

加えてこれからは、新電力PPSへの切り替えで電気料金経費を削減する、という大テーマに挑むと宣言している。

インターウインドウ株式会社
南魚沼市坂戸511-14 ☎025-788-1199